

大野健一さん「日本の自然」特選受賞

第39回「日本の自然」写真コンテスト
プリント部門896人応募点数5,619点
審査員 写真家 中村征夫先生
写真家 福田健太郎先生他
特選 「隔たり」 大野健一

紹介文「日本の自然」に入選して

7月23日の朝日新聞読者ホールの表彰式で大野健一さんが特選入賞、表彰されました。私が同じ場面の、違うシーンの写真を彩西支部の例会で見たのは3年ほど前のことでした。同じ場所に何度も通った結果だと思います。

審査主任の中村征夫先生が自然の写真は一瞬を撮る、撮るぞ撮るぞではダメ。チャンスが来るのを待つのが大事との事。大野さんの写真はそうであったと実感しました。式場に家族おそろいで見えていた息子さんからお祝いのカメラのプレゼントに笑顔いっぱいの大野さんでした。（古怒田 潔）



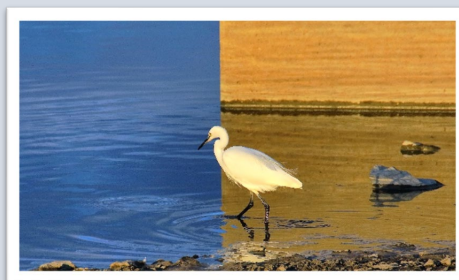
受賞する大野さん

「日本の自然」コンテストに入賞して 大野健一

初めての経験、写真を撮始めて約9年目、仕事をリタイヤしてからの25年来のテニス三昧に終止符を打ち、息子からテニスは心臓に負担があり、有酸素運動に変えてはと言われ、何をしようか迷い最終的にたどり着いたのが写真。カメラの事自体何も分からずに挑戦。奥が深く右も左も分からずに、友人に誘われ今のクラブ彩西支部に見学に行くもビックリ。この様な、写真が撮れるのだと感激、自分に撮れるかどうか不安が先に、友人に相談

したら、写真教室に通ったらと言われて、その足でカメラ屋に行き、一眼レフカメラを購入し、写真教室に一年かけて写真の基本をマスター、ズブナ素人がそう簡単に写真撮影が来るわけがなく、基本を試行錯誤しながら、何とか写真になるようになり、初挑戦2014の県展に応募、初めての入選(うれしかったね)。今でもデスク前の壁にパネルにいれ飾ってあります。(初心忘れるべからず)それから紆余曲折。「県展、埼玉県写真サロン展、私がみつけた埼玉の自然」色々ありました。今回、この様な、「日本の自然」特選。大変な重圧のある賞を頂きまして、私、本人が一番驚愕しています。有難うございました。撮影場所には、毎月何回か行っては撮影しています。春から夏は水が多く、秋から冬は水が無く干潟が出来、撮影には最高です。夕景、水鳥、花etcと。今、私が此処までに来られたのも、初心者をご指導して頂いた、EOS学園の山崎先生、全日写連の松本先生、大野先生、古怒田先生、ニコンクラブの梶山先生、写真仲間

先輩の皆様のお陰です。オット忘れるところでした。家内の理解でした。(これが一番) 此れからも、皆様にご指導を仰ぎながら「一期一会」誰、彼となく出会えることに感謝しながら徘徊し、シャッターを押す最高の一瞬。「栄枯盛衰」思い出は後に、先を見つめて進みたいと思います。



受賞作品「隔たり」

「埼玉の自然」応募締切迫る」

第37回私がみつけた「埼玉の自然」フォトコンテスト
応募締切 11月15日(火) 当日消印有効
作品 A4サイズのみ カラー、モノクロの単写真
応募料 1点につき1,000円
郵便振込 口座番号 00270-8-92182

送り先 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤4-12-13
朝日新聞さいたま総局
私がみつけた「埼玉の自然」フォトコンテスト係
展覧会 2023年2月15日(水)～19日(月)

支部展紹介

第22回女性支部展が9月8日から12日まで、さいたま市市民活動センターで開催されました。講師の佐藤先生、顧問の増田先生、三浦先生はじめ会員10名の30数点が展示されました。テーマ作品として漢字の「さんずい」に渴き、滴、波などの漢字のテーマに沿った思い思いの作品を展示しました。年2回の撮影会と毎月の勉強会を通して、撮影技術の向上を楽しみながら、勉強をしているとの事です。12日盛況のうちに終了しました。



* 次回県本部秋の例会
11月19日(土) 午後1時15分より
埼玉県県民活動総合センター
セミナーホール210
A4のみ1人2点まで

* 次回県本部委員会
令和5年1月21日(土) 午後2時より
埼玉県県民活動総合センター
セミナーホール210